

# ビワ生育情報

千葉県  
平成30年4月号

## 平成30年3月の気象

平成30年3月の半旬別の気象は表1に示した。平均気温はすべての半旬で平年を上回った。月平均気温は11.8℃で、平年より2.6℃、前年より3.7℃高かった。また、館山測候所の月平均気温も12.4℃を記録し、過去50年で最も高かった。

氷点下を記録した日はすべての半旬でみられなかった。月合計は0日で、平年より約3日、前年より2日少なかった。最低極温はすべての半旬で平年を上回った。

降水量は第1、第2及び第5半旬では平年より多く、第3、第4及び第6半旬では平年より少なかった。第3半旬では降雨がなかった。月合計は204mmで、平年の110%、前年の138%であった。

日照時間は第2及び第4半旬を除く4半旬で平年を上回った。月合計は200時間で、平年の127%、前年の116%であった。

表1 平成30年3月の気象（暖地園芸研究所）

半旬	気温(℃)			氷点下日数(日)			最低極温(℃) <sup>※1</sup>		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	12.9	7.7	7.9	0	0.7	1	1.5	0.3	-0.9
2	8.6	8.1	7.5	0	0.8	1	3.2	0.1	-0.4
3	12.4	8.9	7.5	0	0.6	0	2.6	0.8	1.6
4	11.3	9.6	9.2	0	0.2	0	2.8	2.0	0.1
5	10.5	10.0	8.6	0	0.2	0	4.2	2.6	3.0
6	14.8	10.5	8.1	0	0.2	0	5.3	2.4	0.9
平均/計/最低値	11.8	9.2	8.1	0	2.8	2	1.5	-1.1 <sup>※2</sup>	-0.9

※1：各半旬又は3月中に記録した最低気温

※2：3月中に記録した最低極温の30年間平均値

半旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	71	24	23	38	26	26
2	65	22	14	6	27	34
3	0	29	1	50	26	14
4	20	22	1	17	25	45
5	48	48	30	34	24	25
6	1	41	80	55	30	29
合計	204	186	148	200	157	173

## 5月の作業（果実の発育は次ページ）

ビワの袋かけも終わり、展葉の終わった新葉は濃緑色になり、果実は成熟期を迎える。本年の果実の生育は平年と比べて「楠」及び「田中」は早く、「大房」は遅れている。本年は、早生品種の収穫は5月中旬頃から始まり、収穫の最盛期は6月上旬と予想される。

### 収穫

早いところでは早生品種の収穫が5月の中旬頃から始まるので、収穫前にモノレールや索道、道路を整備するとともに園内の草を払っておき、収穫道具や出荷用資材を揃えておく。1樹の収穫は2～3回に分けて完熟果実を収穫するが、特に1回目の収穫では未熟果が混入しないように果皮色をよく確認して収穫する。

## 台木の養成

ビワの苗木は、生産しているところが少ないので、自家生産に取り組む。収穫した果実から種子を採り、種まきして、台木用の実生苗を確保しておく。「楠」の実生は、播種後の生長が早く、根張りが良いので、台木に適している。台木は播種後2、3年間養成して、幹が直径1.5cm程度の太さになったものを用いる。実生苗は、降雨によってごま色斑点病が伝搬し枯死するので、ビニールで屋根かけして雨水を遮断する必要がある。

## 果実の発育

4月1日現在のビワの果径は表2に示した。横径は「楠」が1.64cm、「大房」及び「田中」は3地区の平均でみるとそれぞれ1.50cm、1.56cmであった。「楠」は平年より4%大きく、「大房」は平年より4%小さく、「田中」は平年並みであった。生育が遅かった前年と比べると、3品種共に9~20%大きかった。

縦径は「楠」が2.16cm、「大房」及び「田中」は3地区の平均でみるとそれぞれ2.02cm、1.88cmであった。「楠」及び「田中」は平年より3~9%大きく、「大房」は平年より4%小さかった。また、生育が遅かった前年と比べると、「楠」は13%大きく、「大房」及び「田中」は同程度であった。

果形指数は「楠」が0.76、「大房」及び「田中」は3地区の平均でみるとそれぞれ0.80、0.77であった。本年の果形指数は「楠」は平年より小さく、縦長の傾向で、「大房」及び「田中」は平年と同程度であった。

果実の発育は、平年と比べて「楠」及び「田中」は早く、「大房」は遅れている。今後の気象にも影響されるが、収穫期は、「楠」及び「田中」は平年並みからやや早く、「大房」は平年より遅いと予想される（各品種の平年値は前年の7月号を参照）。本年は、寒害を被った幼果が多かったため、着果量は平年並みからやや少ない。前年10月下旬の台風通過後に潮風害を被り、落葉がみられた樹は果房数を3~4割減らし、樹勢の回復を図る。

クワゴマダラヒトリによる果実の被害は平年よりやや少ない。果樹カメムシ類の越冬量は、南房総市ほか県南地域で多発生年と同様の傾向を示すため、今後の発生予察情報を参考にす。カメムシの発生の多い園では、4月以降ビワ園への飛来に注意を要し、薬剤防除に取り組めるように準備を進める。防除に際しては千葉県農作物病害虫雑草防除指針に従う。

表2 果実の発育（4月1日の果径）

品 種	調査地	横径(cm)			縦径(cm)			果形指数		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	暖地園研	1.64	1.58	1.37	2.16	1.98	1.91	0.76	0.80	0.72
	青 木	1.48	1.59	1.31	1.87	1.98	1.78	0.79	0.80	0.74
大 房	南 無 谷	1.47	1.64	1.47	1.83	2.05	1.94	0.80	0.79	0.76
	暖地園研	1.57	1.50	1.33	1.94	1.91	1.85	0.81	0.79	0.72
	平 均	1.50	1.56	1.37	1.88	1.96	1.86	0.80	0.80	0.74
田 中	青 木	1.43	1.58	1.34	1.92	1.99	1.92	0.74	0.79	0.70
	南 無 谷	1.60	1.55	1.48	2.03	2.04	2.11	0.79	0.76	0.70
	暖地園研	1.66	1.53	1.48	2.14	1.96	1.99	0.77	0.78	0.74
	平 均	1.56	1.55	1.43	2.03	1.98	2.01	0.77	0.78	0.71

果形指数：横径／縦径

平年：昭和63年～平成29年の30年間の平均。

南無谷は平成10年～平成29年の19年間の平均。

なお、表の数値は、表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

【問合せ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生産技術に関する情報」でもご覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>